

# 第 57 回「山形県内企業の景気動向調査」 確報

(平成 30 年 11 月調査)

## ～景況感は 6 期連続で悪化～

### 【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」が▲7.2 (前回調査比 5.7 ポイント下落) と **6 期連続で悪化**した。「各種 D I 値 (前年同期比)」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」が悪化し、「人員・人手」は 2 期連続で上昇となった。引き続き、原燃料価格上昇の影響がうかがえ、人手不足感も高まっている。
- **業種別**に「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」をみると、建設業が 1.1 (前回調査比 1.1 ポイント上昇)、製造業が 0.9 (前回調査比 10.9 ポイント下落)、卸・小売業が▲19.0 (前回調査比 2.0 ポイント上昇)、サービス業が▲13.2 (前回調査比 13.2 ポイント下落) と、建設業と卸・小売業で改善したものの、製造業とサービス業で悪化となった。サービス業では、D I 値がマイナスに転じた。
- **地域別**に「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」をみると、村山南部が▲5.6 (前回調査比 2.0 ポイント下落)、村山北部が▲7.6 (前回調査比 9.8 ポイント下落)、最上が 6.6 (前回調査比 8.9 ポイント上昇)、置賜が 3.8 (前回調査比 0.1 ポイント上昇)、庄内田川が▲13.2 (前回調査比 12.0 ポイント下落)、庄内飽海が▲17.9 (前回調査比 13.9 ポイント下落) と、最上で改善、置賜でほぼ横ばいとなったものの、村山南部、村山北部、庄内田川、庄内飽海で悪化となった。村山北部では D I 値がマイナスに転じている。
- **先行き見通し**は「自社の業況 D I 値」が▲8.9 (今回調査比 1.7 ポイント下落) とさらに悪化の見込みとなっている。

### 【特別調査】

- **冬季ボーナス**について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 62.7% (前年比 0.3 ポイント上昇) と小幅ながら上昇し、平成 24 年 11 月調査以降 7 年連続の上昇となった。

平成 30 年 12 月

株式会社 フィデア総合研究所

# 目次

I.	県内企業の業況	1
1.	概況	1
2.	業種別の動向	2
(1)	業種別の概況	2
(2)	業種別 D I 値の動向	3
①	建設業	3
②	製造業	5
③	卸・小売業	7
④	サービス業	9
3.	地域別の動向	11
(1)	地域別の概況	11
(2)	地域別 D I 値の動向	12
①	村山南部	12
②	村山北部	13
③	最上	14
④	置賜	15
⑤	庄内田川	16
⑥	庄内飽海	17
II.	景気の天気予報図	18
III.	特別調査	19
1.	冬季ボーナスについて	19
(1)	支給予定動向	19
(2)	支給予定額	21
<参考資料 I : 地域別・業種別回答率>		23
<参考資料 II : 調査の概要>		23

## I. 県内企業の業況

### 1. 概況

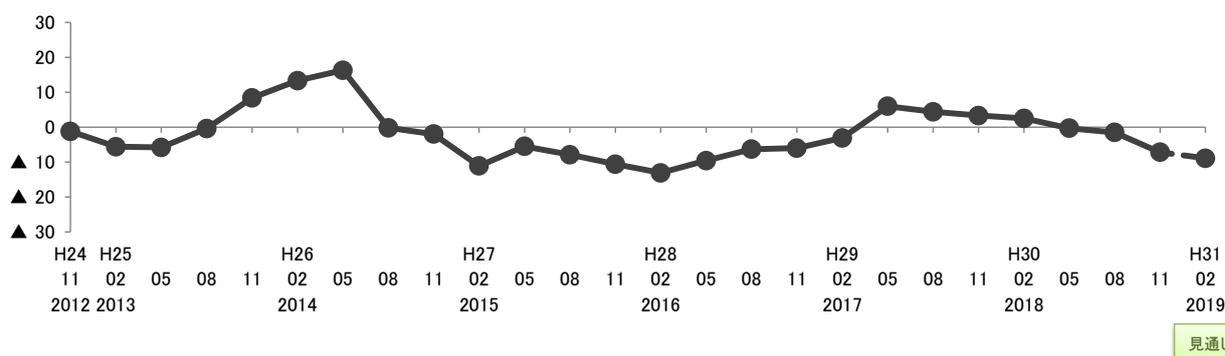
#### 現状判断：景況感は6期連続で悪化

県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲7.2（前回調査比5.7ポイント下落）と6期連続で悪化した。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」が悪化し、「人員・人手」は2期連続で上昇となった。引き続き、原燃料価格上昇の影響がうかがえ、人手不足感も高まっている。

#### 来期の見通し：さらに悪化が見込まれる

先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲8.9（今回調査比1.7ポイント下落）とさらに悪化の見込みとなっている。

図表 1 全業種「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
H 29.11 (n=418)	3.3	(▲ 1.1)	▲ 6.7	4.1	▲ 0.2	41.4	▲ 4.0
H 30.02 (n=414)	2.5	(▲ 0.8)	▲ 8.1	3.6	▲ 2.4	40.8	▲ 2.9
H 30.05 (n=426)	▲ 0.3	(▲ 2.8)	▲ 12.5	2.6	0.9	31.5	0.9
H 30.08 (n=412)	▲ 1.5	(▲ 1.2)	▲ 9.6	▲ 0.2	▲ 7.2	33.4	▲ 1.2
<b>H 30.11 (n=418)</b>	<b>▲ 7.2</b>	<b>(▲ 5.7)</b>	<b>▲ 4.9</b>	<b>▲ 6.4</b>	<b>▲ 12.4</b>	<b>35.4</b>	<b>▲ 5.0</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 6.2)	(▲ 5.2)	(2.0)	(▲ 3.8)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 8.9</b>	-	-	<b>▲ 3.9</b>	<b>▲ 8.4</b>	<b>32.1</b>	<b>▲ 9.5</b>
今回調査比	(▲ 1.7)	-	-	(2.5)	(4.0)	(▲ 3.3)	(▲ 4.5)

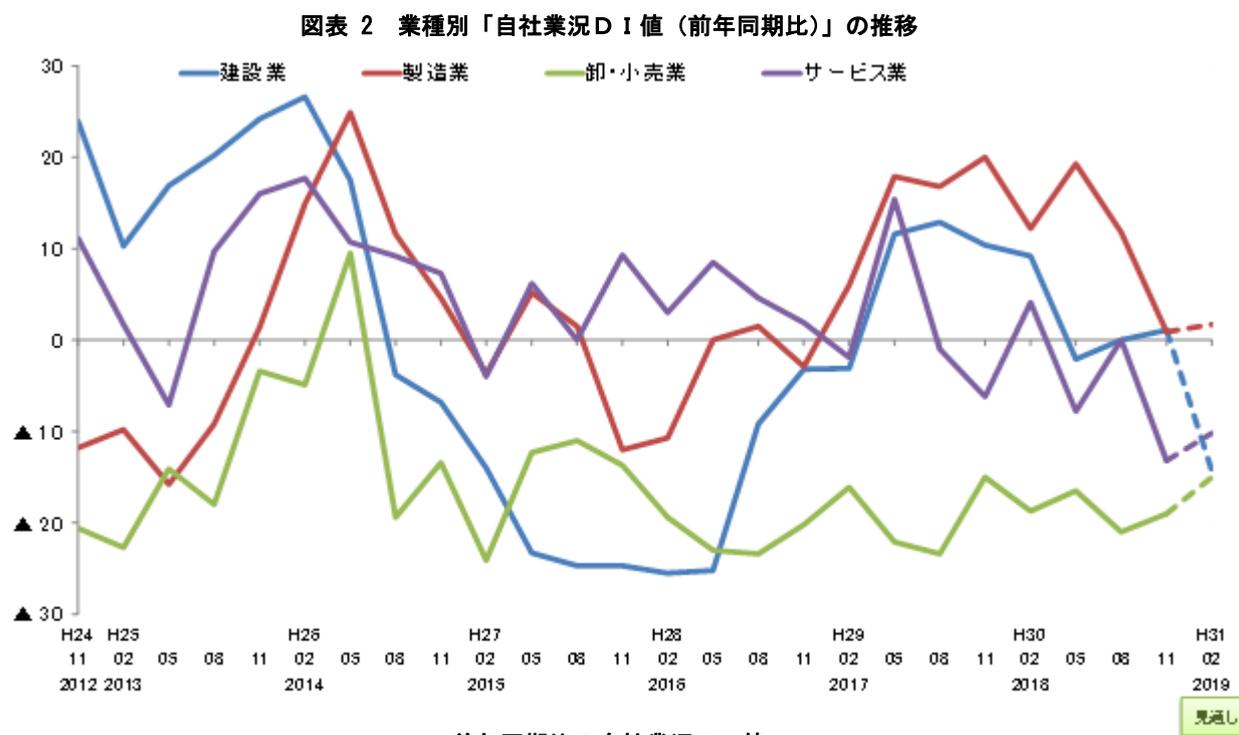
※「売上高」DI値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

## 2. 業種別の動向

### (1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が 1.1（前回調査比 1.1 ポイント上昇）、製造業が 0.9（前回調査比 10.9 ポイント下落）、卸・小売業が▲19.0（前回調査比 2.0 ポイント上昇）、サービス業が▲13.2（前回調査比 13.2 ポイント下落）と、建設業と卸・小売業で改善したものの、製造業とサービス業で悪化となった。サービス業では、D I 値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、建設業で悪化の見込みとなっている。



業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
H 29. 11 (n=418)	3.3	10.4	20.0	▲ 15.0	▲ 6.2
H 30. 02 (n=414)	2.5	9.2	12.2	▲ 18.7	4.1
H 30. 05 (n=426)	▲ 0.3	▲ 2.1	19.3	▲ 16.5	▲ 7.8
H 30. 08 (n=412)	▲ 1.5	0.0	11.8	▲ 21.0	0.0
H 30. 11 (n=418)	▲ 7.2	1.1	0.9	▲ 19.0	▲ 13.2
前回調査比	(▲ 5.7)	(1.1)	(▲ 10.9)	(2.0)	(▲ 13.2)
先行き見通し	▲ 8.9	▲ 14.3	1.7	▲ 15.0	▲ 10.2
今回調査比	(▲ 1.7)	(▲ 15.4)	(0.8)	(4.0)	(3.0)

## (2) 業種別 D I 値の動向

### ① 建設業

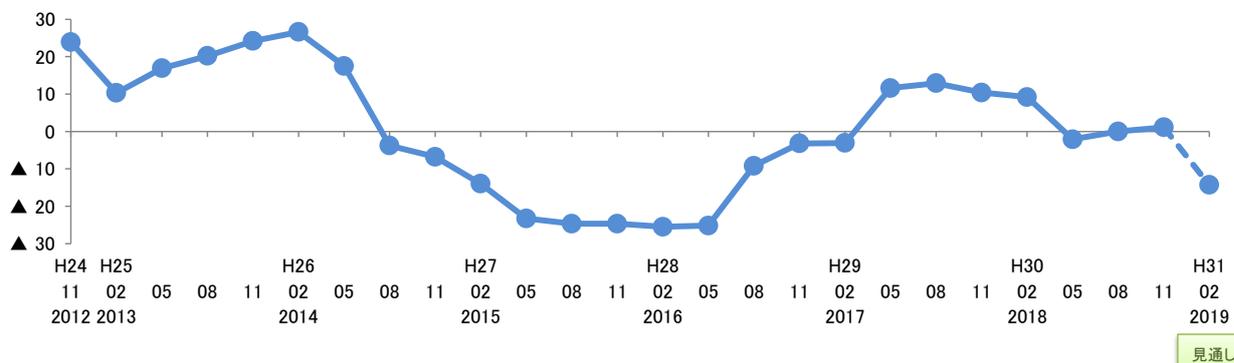
#### 現状：若干改善

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 1.1（前回調査比 1.1 ポイント上昇）と若干改善し、D I 値がプラスに転じた。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「完成工事高」「営業利益」「手持ち工事高」で改善した。「人員・人手」は大幅に上昇してプラス幅が拡大し、人手不足感が一層強まっている。

#### 来期の見通し：大幅な悪化が見込まれる

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲14.3（今回調査比 15.4 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

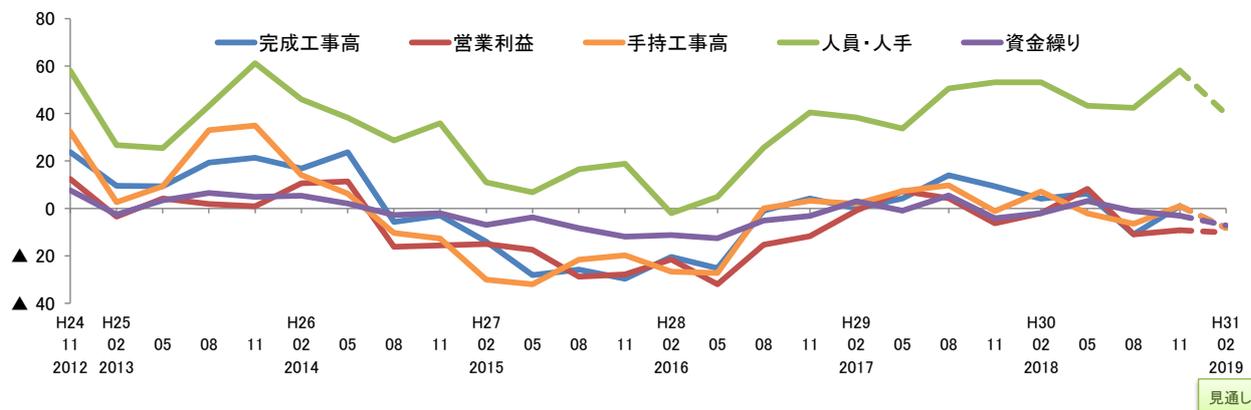
図表 3 建設業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

建設業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測						
H 29. 11 (n=97)	10.4	(▲ 2.5)	▲ 10.8	9.3	▲ 6.3	▲ 1.1	53.1	▲ 4.2
H 30. 02 (n=98)	9.2	(▲ 1.2)	▲ 17.7	4.1	▲ 2.0	7.1	53.1	▲ 2.0
H 30. 05 (n=97)	▲ 2.1	(▲ 11.3)	▲ 23.5	6.2	8.3	▲ 2.1	43.3	3.1
H 30. 08 (n=92)	0.0	(2.1)	▲ 24.7	▲ 10.9	▲ 10.9	▲ 6.5	42.4	▲ 1.1
<b>H 30. 11 (n=98)</b>	<b>1.1</b>	<b>(1.1)</b>	<b>▲ 10.9</b>	<b>1.0</b>	<b>▲ 9.2</b>	<b>1.0</b>	<b>58.1</b>	<b>▲ 3.1</b>
前回調査比	-	-	-	(11.9)	(1.7)	(7.5)	(15.7)	(▲ 2.0)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 14.3</b>	-	-	<b>▲ 8.2</b>	<b>▲ 10.2</b>	<b>▲ 8.2</b>	<b>39.8</b>	<b>▲ 7.2</b>
今回調査比	(▲ 15.4)	-	-	(▲ 9.2)	(▲ 1.0)	(▲ 9.2)	(▲ 18.3)	(▲ 4.1)

図表 4 建設業「各種DI値（前年同期比）」の推移



Q. 今期の業況について

業界の声

- 今期は仕事量も多く設備の業界は好調と感じられる。ただし、少子高齢化の影響で全体的な技術者・技能者の不足は慢性化している。(村山南)
- 公共・民間とも工事物件は多くあるものの、人手が足りなく受注を控える状況にある。(村山北)
- 夏季の豪雨災害や、高規格道路整備計画により、地域内での工事量が激増している。このため、労働者不足、下請け会社不足、コンクリート製品の納期遅れなどが深刻化している。(最上)
- 30年度は何とか前年並みにもって行けそうだが、来期に向けて期待できるものも少なく、県外に出て仕事を求めるほかないのではないかと思う。(置賜)
- 人手不足により手持ち工事が精一杯で仕事の受注を断念せざるを得ない。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策について

- 来期の見通しは、公共工事、民間工事ともに大型の設備投資計画がなく、好材料がない状態である。(村山南)
- リフォーム工事のような小さな物件について数をこなし、利益率をあげる努力をしている。(村山北)
- 社員増の予定だが、募集に対して希望者がなかなかおらず、苦心している。(置賜)
- 冬に向けて、暖房設備工事、消雪設備工事等の仕事が多い。来期は消費税が上がることもあり、その前に新築、リフォーム工事の受注を期待したい。(置賜)
- 人材不足に対処するため就職面接会へ積極的に参加している。(庄内飽海)
- やはり職人の養成が重要である。基本は職人の手作業での仕事になり、養成に時間がかかるため一気に人手を増やせないのが難点である。(庄内飽海)

## ② 製造業

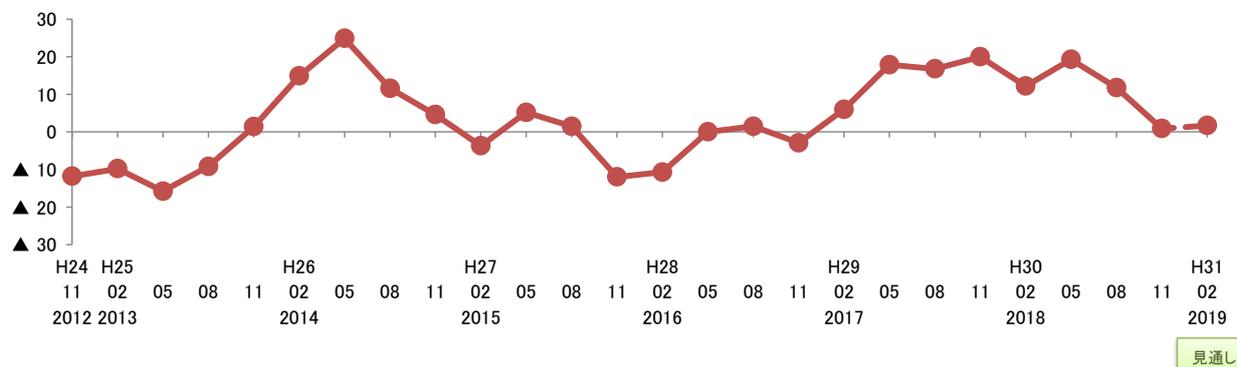
### 現状：2期連続で悪化

「自社の業況DI値（前年同期比）」は0.9（前回調査比10.9ポイント下落）と2期連続で悪化した。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「仕入価格」はほぼ横ばいとなったものの、「売上高」「営業利益」「在庫状況」「資金繰り」で悪化した。中でも「営業利益」「資金繰り」でDI値がマイナスに転じた。一方、「人員・人手」は2期連続でプラス幅が拡大した。各社のコメントをみると、食料品製造業をはじめとして、依然、原材料や燃料価格上昇の影響がうかがえるほか、為替相場の動向も注視している状況がうかがえる。

### 来期の見通し：ほぼ横ばい

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が1.7（今回調査比0.8ポイント上昇）とほぼ横ばいの見込みとなっている。

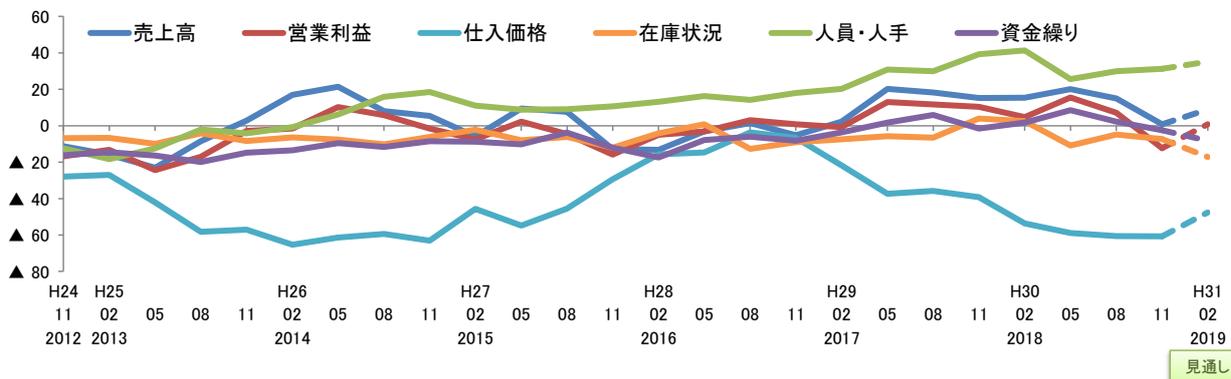
図表 5 製造業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H 29. 11 (n=125)	20.0	(3.2)	2.9	15.2	10.4	▲ 39.2	4.0	39.2	▲ 1.6
H 30. 02 (n=123)	12.2	(▲ 7.8)	2.4	15.4	4.8	▲ 53.6	2.5	41.4	1.7
H 30. 05 (n=129)	19.3	(7.1)	▲ 9.0	20.1	15.5	▲ 58.9	▲ 10.8	25.6	8.5
H 30. 08 (n=127)	11.8	(▲ 7.5)	1.6	15.0	7.1	▲ 60.6	▲ 4.8	29.9	2.3
H 30. 11 (n=122)	<b>0.9</b>	<b>(▲ 10.9)</b>	<b>7.8</b>	<b>0.8</b>	<b>▲ 12.3</b>	<b>▲ 60.7</b>	<b>▲ 7.3</b>	<b>31.2</b>	<b>▲ 2.4</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 14.2)	(▲ 19.4)	(▲ 0.1)	(▲ 2.5)	(1.3)	(▲ 4.7)
先行き見通し	<b>1.7</b>	-	-	<b>9.0</b>	<b>0.8</b>	<b>▲ 47.6</b>	<b>▲ 17.2</b>	<b>35.2</b>	<b>▲ 8.2</b>
今回調査比	(0.8)	-	-	(8.2)	(13.1)	(13.1)	(▲ 9.9)	(4.0)	(▲ 5.8)

図表 6 製造業「各種DI値（前年同期比）」の推移



Q. 今期の業況について

業界の声

- 資材等の値上げによって売り上げアップの割には利益アップになかなかつながらない。(村山南)
- 原料米は下がったが、運賃、包装代、燃料費が上がり製品に転嫁できない。また、夏の猛暑で売り上げが低下している。(村山北)
- 国内市場が厳しいなか、輸出は堅調に推移している。来年の消費税 10%への増税は誠に厳しい。(村山北)
- 売り上げが大きく伸びる要素は無い。厳しい状況が続く。(最上)
- 原材料の高騰が続くので利益が圧迫される。(置賜)
- 上期の大幅な受注減少により、利益減少の分を、下期も継承する状況である。そのため、資金繰りが非常に厳しくなっている。(庄内田川)

Q. 来期の見通しや対策について

- 減収にはなるが、内製化を進め増益になるように努める。(村山南)
- クリスマス、年末商戦となるので営業・製造の準備をしっかりと行っていく。(村山南)
- 新規顧客の開拓、製品開発、製造工程の見直し等に取り組んでいる。(村山北)
- 横ばいの見通し。需要はあるが、増産への人手が確保できない。(村山北)
- 為替変動の動向が読みにくいので、為替予約せずに取引している。(最上)
- 人材確保と社員のやる気を引き出す等のため、10月から手当てのアップとパートの時給引き上げを行った。それに伴い、来期も5%以上の人件費の上昇を見込み、その分の効率化と原価対策が急務である。(庄内田川)
- 消費税増税前に、駆け込み需要が発生する可能性が大きい。しかし、海外向けについては、不透明感が出てきている。(庄内飽海)

### ③ 卸・小売業

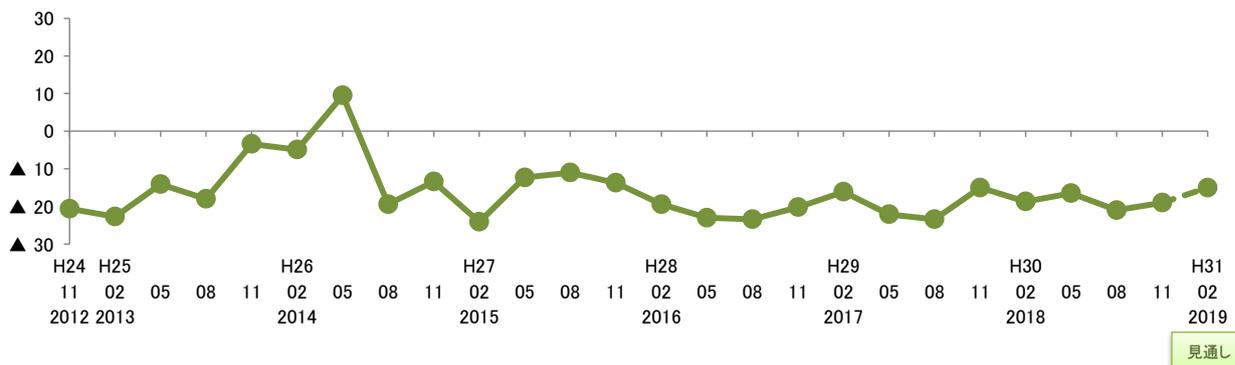
#### 現状：一進一退

「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲19.0（前回調査比 2.0 ポイント上昇）と一進一退の状況となっている。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」「在庫状況」が悪化した一方、「営業利益」「仕入価格」が改善、「資金繰り」が横ばいとなった。「人員・人手」は低下してプラス幅が縮小した。各社のコメントからは、依然として個人消費が低迷している状況がうかがえる。

#### 来期の見通し：改善が見込まれるものの低調な推移

業況の先行き見通しは、▲15.0（今回調査比 4.0 ポイント上昇）と、改善が見込まれている。

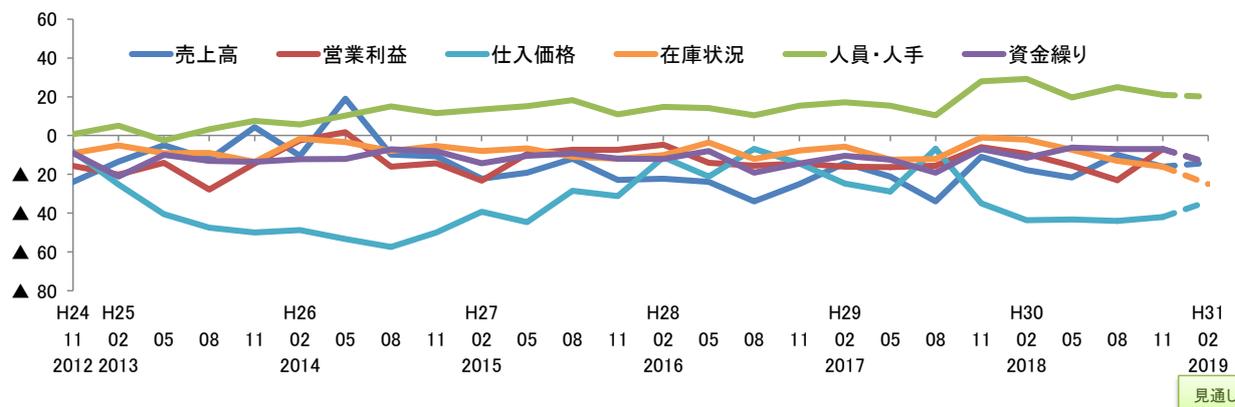
図表 7 卸・小売業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H 29.11 (n=100)	▲ 15.0	(8.4)	▲ 12.2	▲ 11.0	▲ 6.0	▲ 35.0	▲ 1.0	28.0	▲ 7.0
H 30.02 (n=96)	▲ 18.7	(▲ 3.7)	▲ 13.0	▲ 17.8	▲ 9.4	▲ 43.7	▲ 2.1	29.2	▲ 11.4
H 30.05 (n=97)	▲ 16.5	(2.2)	▲ 15.6	▲ 21.7	▲ 15.5	▲ 43.3	▲ 7.3	19.6	▲ 6.2
H 30.08 (n=100)	▲ 21.0	(▲ 4.5)	▲ 5.2	▲ 10.0	▲ 23.0	▲ 44.0	▲ 13.0	25.0	▲ 7.0
<b>H 30.11 (n=100)</b>	<b>▲ 19.0</b>	<b>(2.0)</b>	<b>▲ 15.0</b>	<b>▲ 16.0</b>	<b>▲ 7.0</b>	<b>▲ 42.0</b>	<b>▲ 16.0</b>	<b>21.0</b>	<b>▲ 7.0</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 6.0)	(16.0)	(2.0)	(▲ 3.0)	(▲ 4.0)	(0.0)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 15.0</b>	-	-	<b>▲ 14.0</b>	<b>▲ 14.0</b>	<b>▲ 34.0</b>	<b>▲ 25.0</b>	<b>20.0</b>	<b>▲ 14.0</b>
今回調査比	(4.0)	-	-	(2.0)	(▲ 7.0)	(8.0)	(▲ 9.0)	(▲ 1.0)	(▲ 7.0)

図表 8 卸・小売業「各種DI値（前年同期比）」の推移



### Q. 今期の業況について

### 業界の声

- 需要の減退が続いており、コスト削減でしのいでいる状況である。(村山南)
- 今期は減収減益の見込み。少子高齢化と消費人口の減少により食品関連企業の環境は厳しい。加えて今年の夏のような酷暑による購買機会の減少や頻発した台風や大雨による食材の仕入れ難などの要因が消費動向に影響する。(村山北)
- 消費者の低価格志向が依然根強く、デフレ脱却には至っていない。(置賜)
- 東北中央高速道の開通により県外客が流れてきている。お陰様で飲食店の売り上げは前年比プラスで推移している。(置賜)
- 地元以外での売り上げが好調である。地元の売り上げより域外での売り上げが大きくなれば好転する。(庄内田川)
- 客数が減少している。客単価は微増の傾向にあるが、総じて売上金額は減少傾向にある。(庄内飽海)

### Q. 来期の見通しや対策について

- 高齢者を活用するための雇用制度の見直しを行う。(村山南)
- 増税前の駆け込みによる売上増を期待したい。消費税増税後の消費の冷え込みが目に見えているので、2019年9月末までが勝負である。(置賜)
- 前期・今期は不需要期だったが、来期より暖房用の需要が増えてくるので、少しは良くなるだろう。ただ、仕入れ価格の値上がり心配である。(庄内田川)
- 店舗での売り上げ減を、なんとかネット販売でカバーしようとしているが、価格競争が厳しいのでまだまだ難しい。(庄内田川)
- 玄米価格が高騰したため、来期の見通しは非常に悪い。年末にかけての商品開発と販売方法の見直しが必要である。(庄内飽海)

## ④ サービス業

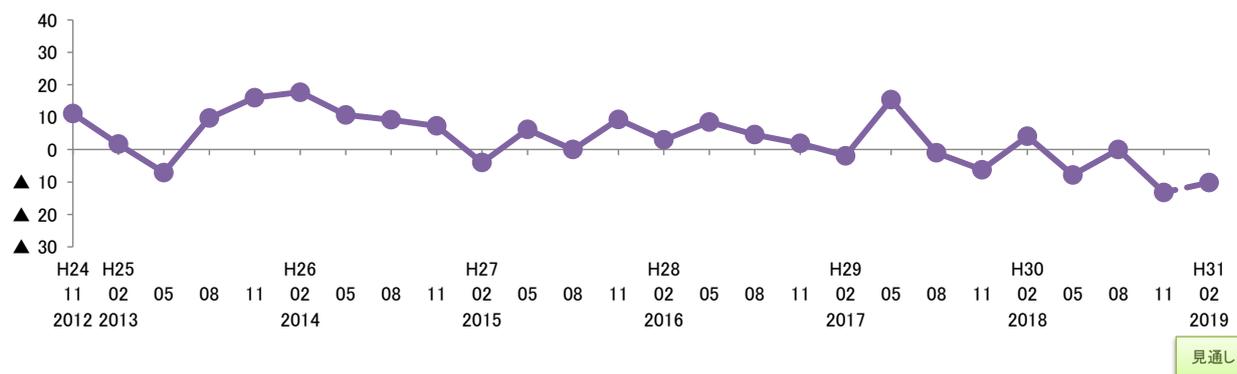
### 現状：大幅に悪化

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲13.2（前回調査比 13.2 ポイント下落）と大幅に悪化し、D I 値がマイナスに転じた。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」のすべてで悪化した。「人員・人手」の D I 値はプラス幅が縮小したものの依然として高水準で推移しており、人手不足感が強い。各社のコメントからは、消費低迷や燃料費の高騰等が影響している状況がうかがえる。

### 来期の見通し：若干改善の見込み

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲10.2（今回調査比 3.0 ポイント上昇）と若干改善の見込みとなっている。

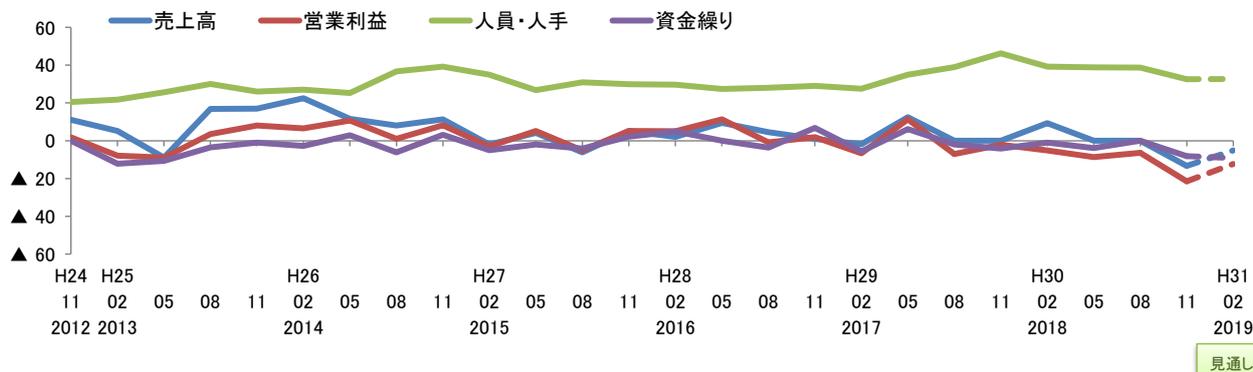
図表 9 サービス業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H 29.11 (n=97)	▲ 6.2	(▲ 5.2)	▲ 5.0	0.0	▲ 2.1	46.3	▲ 4.1
H 30.02 (n=97)	4.1	(10.3)	▲ 7.2	9.3	▲ 5.1	39.2	▲ 1.0
H 30.05 (n=103)	▲ 7.8	(▲ 11.9)	▲ 3.1	0.0	▲ 8.7	38.8	▲ 3.9
H 30.08 (n=93)	0.0	(7.8)	▲ 13.5	0.0	▲ 6.4	38.7	0.0
H 30.11 (n=98)	▲ 13.2	(▲ 13.2)	▲ 5.4	▲ 13.3	▲ 21.5	32.6	▲ 8.2
前回調査比	-	-	-	(▲ 13.3)	(▲ 15.1)	(▲ 6.1)	(▲ 8.2)
先行き見通し	▲ 10.2	-	-	▲ 5.1	▲ 12.3	32.7	▲ 9.2
今回調査比	(3.0)	-	-	(8.2)	(9.2)	(0.1)	(▲ 1.0)

図表 10 サービス業「各種DI値（前年同期比）」の推移



見通し

Q. 今期の業況について

業界の声

- 石油業界は原油高の影響で石油製品販売価格が上昇し、高止まりしていることから、買い控えが起こっている。販売額は伸長しているものの販売量が伸び悩み、利益も減少している状況にある。(村山南)
- 今期は公共投資に恵まれて業況も良く回っているが、来年以降の設備投資状況が見通せていない。景気が良くても給与が増えているわけではないので消費にまわるものも少なくなっている。(村山南)
- 業界全般としては期の前半は緩やかで、後半は例年並み。当社としては今期全般的に順調に推移し、増収増益につながった。(置賜)
- スタッフの募集をしても集まらない。最低賃金があがり利益を圧迫している。(庄内田川)
- 人手不足が会社の経営を圧迫している。人の補充がない限り、売り上げは下降線をたどる(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策について

- 構造的に大きな変化は見られず、売り上げ、費用とも厳しい環境は続くと思われる。ますます人手不足が深刻となり、米中の貿易戦争から不景気になる可能性も高い。燃料もサウジアラビアと米国の関係悪化など上昇リスクが高く、不安視している。(村山南)
- 一般宴会の動きが悪い。忘年会の予約は地元の利用よりも地域外利用が目立つ。売り上げが伸びない中、経費圧縮に一層注力する予定である。(村山北)
- ネット予約が主流になってきているので、力を入れる。(庄内田川)
- 客単価は減少していく状況で、単価アップを狙うためには多額の資金を投入してリニューアルをしていき、目新しいプラン提供をしていかなければならない業界である。しかしながら、それほどのリスクを取るべきかどうか判断が難しい状況にもある。(庄内田川)
- 働き方改革に伴って、残業時間、賃金の見直し、福利厚生の見直し等に取り組んでいる。(庄内飽海)

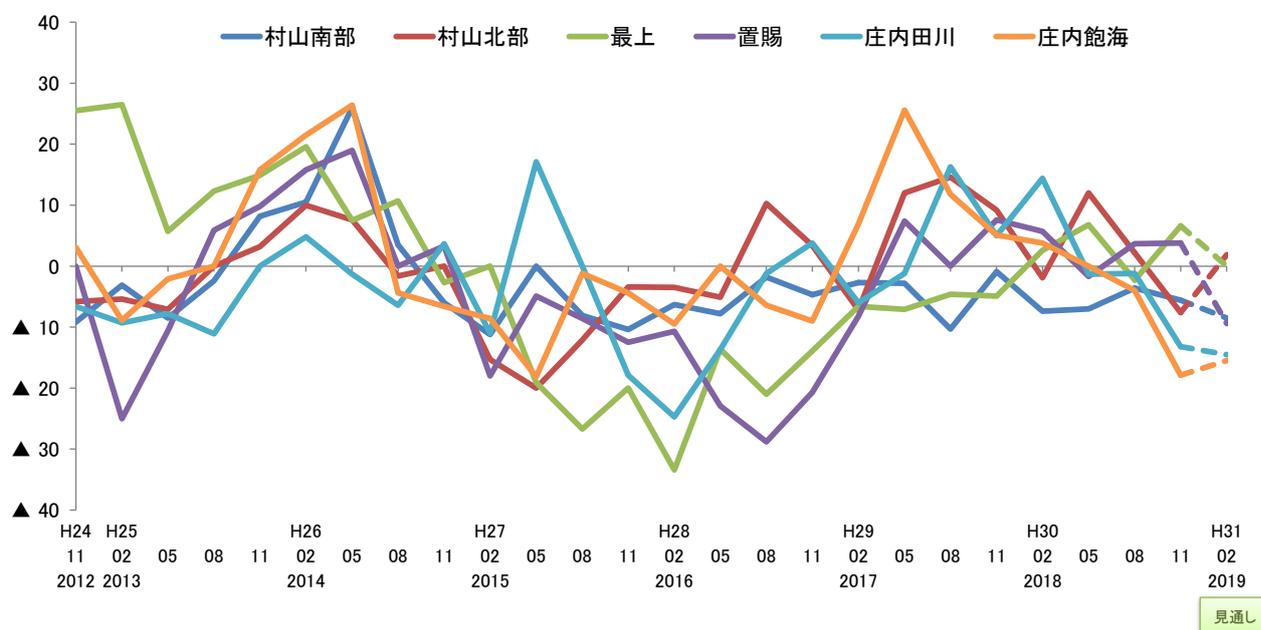
### 3. 地域別の動向

#### (1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲5.6（前回調査比2.0ポイント下落）、村山北部が▲7.6（前回調査比9.8ポイント下落）、最上が6.6（前回調査比8.9ポイント上昇）、置賜が3.8（前回調査比0.1ポイント上昇）、庄内田川が▲13.2（前回調査比12.0ポイント下落）、庄内飽海が▲17.9（前回調査比13.9ポイント下落）と、最上で改善、置賜でほぼ横ばいとなったものの、村山南部、村山北部、庄内田川、庄内飽海で悪化となった。村山北部ではDI値がマイナスに転じている。

業況の先行き見通しをみると、村山南部、最上、置賜、庄内田川で悪化が見込まれている。

図表 11 地域別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
H 29. 11 (n=418)	3.3	▲ 0.9	9.2	▲ 4.9	7.6	5.0	5.1
H 30. 02 (n=414)	2.5	▲ 7.4	▲ 1.9	2.6	5.7	14.4	3.8
H 30. 05 (n=426)	▲ 0.3	▲ 7.0	12.0	6.8	▲ 1.7	▲ 1.3	0.0
H 30. 08 (n=412)	▲ 1.5	▲ 3.6	2.2	▲ 2.3	3.7	▲ 1.2	▲ 4.0
<b>H 30. 11 (n=418)</b>	<b>▲ 7.2</b>	<b>▲ 5.6</b>	<b>▲ 7.6</b>	<b>6.6</b>	<b>3.8</b>	<b>▲ 13.2</b>	<b>▲ 17.9</b>
前回調査比	(▲ 5.7)	(▲ 2.0)	(▲ 9.8)	(8.9)	(0.1)	(▲ 12.0)	(▲ 13.9)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 8.9</b>	<b>▲ 8.5</b>	<b>1.9</b>	<b>0.0</b>	<b>▲ 9.4</b>	<b>▲ 14.5</b>	<b>▲ 15.5</b>
今回調査比	(▲ 1.7)	(▲ 2.9)	(9.5)	(▲ 6.6)	(▲ 13.2)	(▲ 1.3)	(2.4)

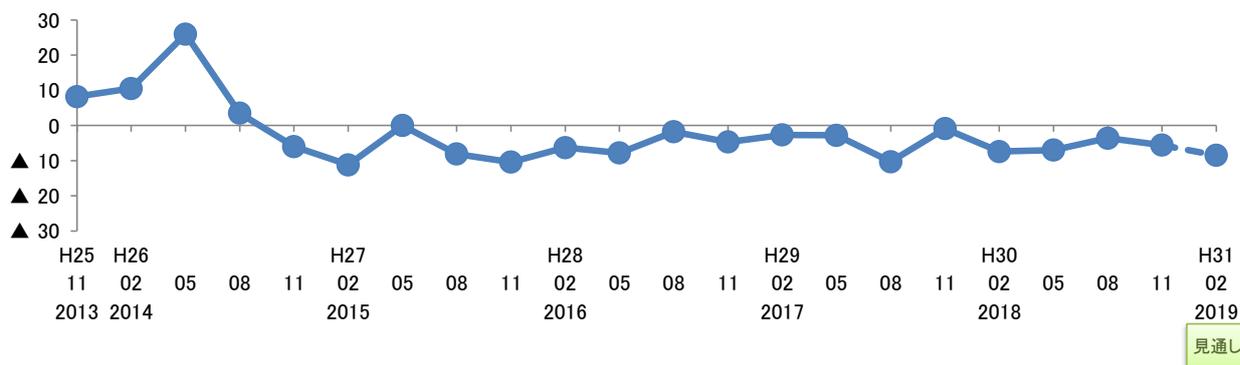
## (2) 地域別 D I 値の動向

### ① 村山南部

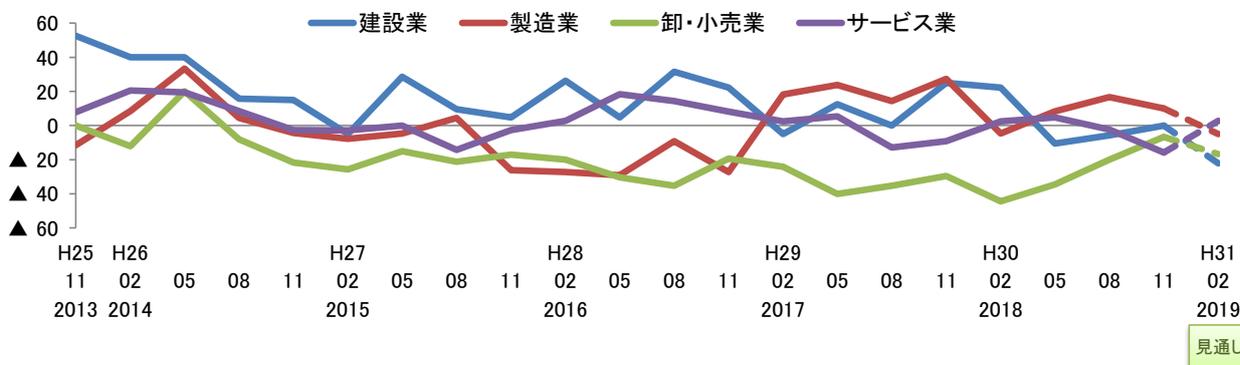
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲5.6（前回調査比 2.0 ポイント下落）と小幅ながら悪化した。業種別にみると、建設業と卸・小売業で改善となっているものの、製造業とサービス業で悪化となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲8.5（今回調査比 2.9 ポイント下落）と小幅ながら更なる悪化が見込まれている。

図表 12 村山南部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 13 村山南部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 29. 11 (n=113)	▲ 0.9	(9.4)	▲ 8.4	25.0	27.3	▲ 29.6	▲ 9.1
H 30. 02 (n=108)	▲ 7.4	(▲ 6.5)	▲ 4.4	22.2	▲ 4.6	▲ 44.4	2.4
H 30. 05 (n=114)	▲ 7.0	(0.4)	▲ 10.2	▲ 10.6	8.3	▲ 34.5	4.8
H 30. 08 (n=112)	▲ 3.6	(3.4)	▲ 9.6	▲ 5.8	16.7	▲ 20.0	▲ 2.4
<b>H 30. 11 (n=106)</b>	<b>▲ 5.6</b>	<b>(▲ 2.0)</b>	<b>▲ 9.8</b>	<b>0.0</b>	<b>10.0</b>	<b>▲ 6.7</b>	<b>▲ 15.8</b>
前回調査比	-	-	-	(5.8)	(▲ 6.7)	(13.3)	(▲ 13.4)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 8.5</b>	-	-	<b>▲ 22.2</b>	<b>▲ 5.0</b>	<b>▲ 16.7</b>	<b>2.7</b>
今回調査比	(▲ 2.9)	-	-	(▲ 22.2)	(▲ 15.0)	(▲ 10.0)	(18.5)

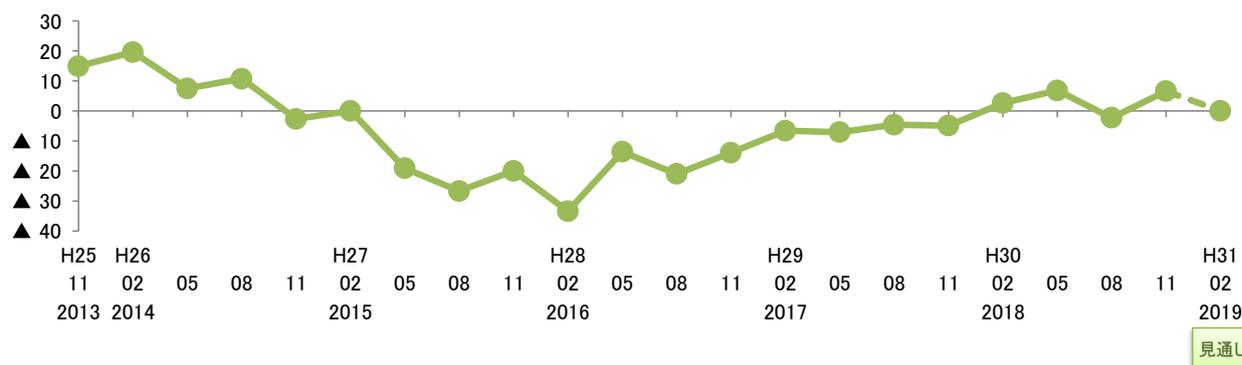


### ③ 最上

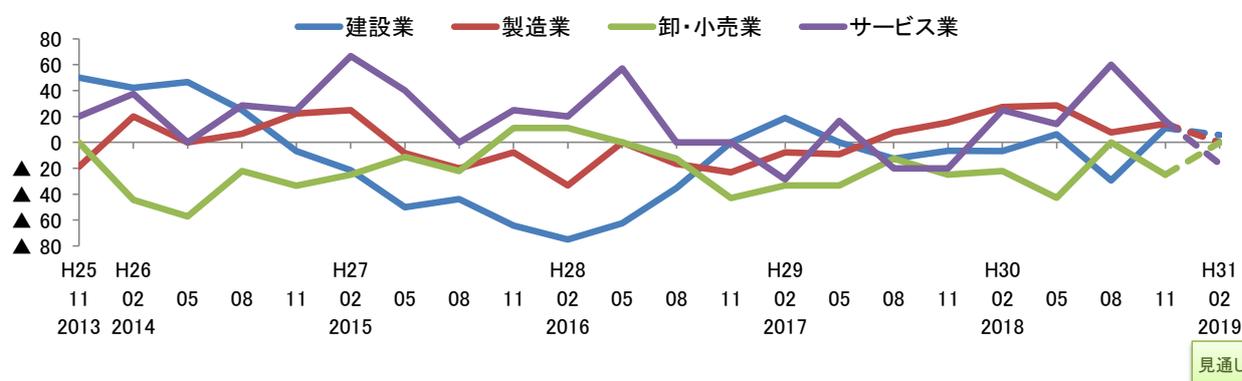
「自社の業況DI値（前年同期比）」は6.6（前回調査比8.9ポイント上昇）と改善し、DI値がプラスに転じた。業種別にみると、卸・小売業とサービス業で悪化したものの、建設業と製造業で改善となっている。建設業では豪雨災害の復旧工事等の受注増がみられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が0.0（今回調査比6.6ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 16 最上「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 17 最上「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

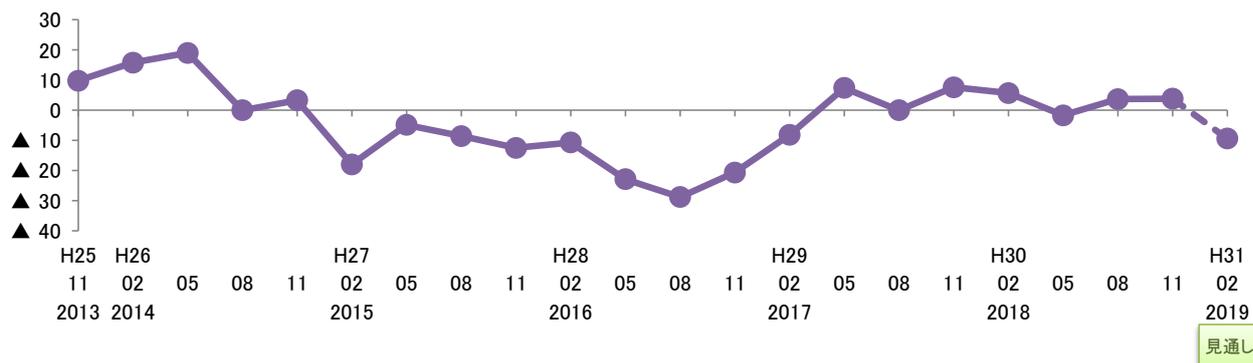
最上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 29.11 (n=41)	▲ 4.9	(▲ 0.3)	▲ 2.3	▲ 6.6	15.4	▲ 25.0	▲ 20.0
H 30.02 (n=39)	2.6	(7.5)	▲ 12.2	▲ 6.7	27.3	▲ 22.2	25.0
H 30.05 (n=44)	6.8	(4.2)	▲ 12.8	6.2	28.6	▲ 42.8	14.2
H 30.08 (n=43)	▲ 2.3	(▲ 9.1)	▲ 18.2	▲ 29.4	7.7	0.0	60.0
<b>H 30.11 (n=46)</b>	<b>6.6</b>	<b>(8.9)</b>	<b>▲ 7.0</b>	<b>11.1</b>	<b>14.3</b>	<b>▲ 25.0</b>	<b>16.6</b>
前回調査比	-	-	-	(40.5)	(6.6)	(▲ 25.0)	(▲ 43.4)
<b>先行き見通し</b>	<b>0.0</b>	-	-	<b>5.6</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>▲ 16.6</b>
今回調査比	(▲ 6.6)	-	-	(▲ 5.5)	(▲ 14.3)	(25.0)	(▲ 33.2)

### ④ 置 賜

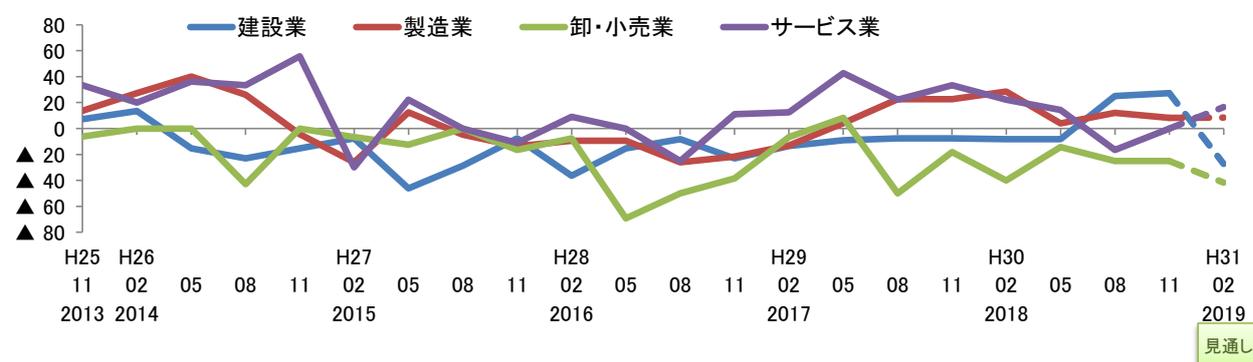
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 3.8（前回調査比 0.1 ポイント上昇）とほぼ横ばいとなった。業種別にみると、製造業で悪化したものの、卸・小売業で横ばい、建設業とサービス業で改善した。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲9.4（今回調査比 13.2 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 18 置賜「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 19 置賜「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

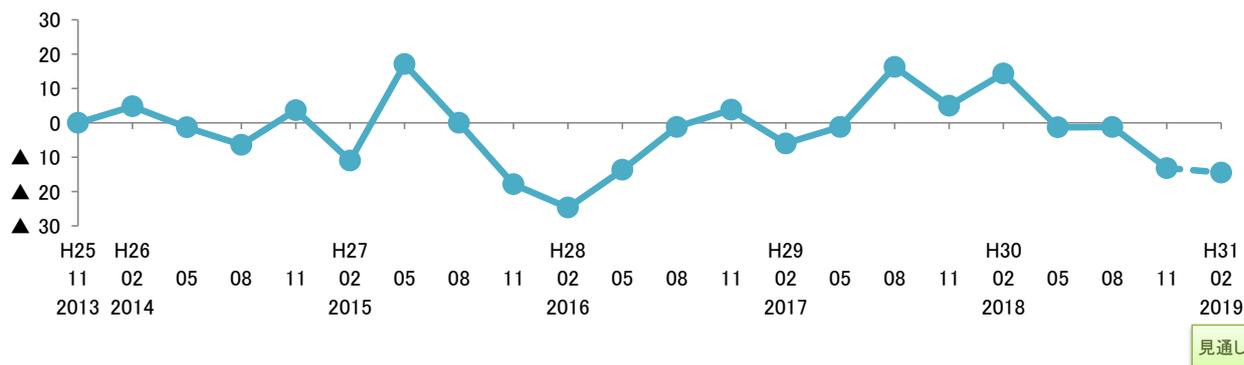
置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 29. 11 (n=52)	7.6	(7.6)	▲ 10.4	▲ 7.7	22.7	▲ 18.2	33.4
H 30. 02 (n=52)	5.7	(▲ 1.9)	▲ 19.2	▲ 8.3	28.6	▲ 40.0	22.2
H 30. 05 (n=58)	▲ 1.7	(▲ 7.4)	▲ 19.3	▲ 8.3	4.0	▲ 14.3	14.3
H 30. 08 (n=55)	3.7	(5.4)	0.0	25.0	12.0	▲ 25.0	▲ 16.6
<b>H 30. 11 (n=53)</b>	<b>3.8</b>	<b>(0.1)</b>	<b>0.0</b>	<b>27.3</b>	<b>8.3</b>	<b>▲ 25.0</b>	<b>0.0</b>
前回調査比	-	-	-	(2.3)	(▲ 3.7)	(0.0)	(16.6)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 9.4</b>	-	-	<b>▲ 27.3</b>	<b>8.4</b>	<b>▲ 41.7</b>	<b>16.6</b>
今回調査比	(▲ 13.2)	-	-	(▲ 54.6)	(0.1)	(▲ 16.7)	(16.6)

### ⑤ 庄内田川

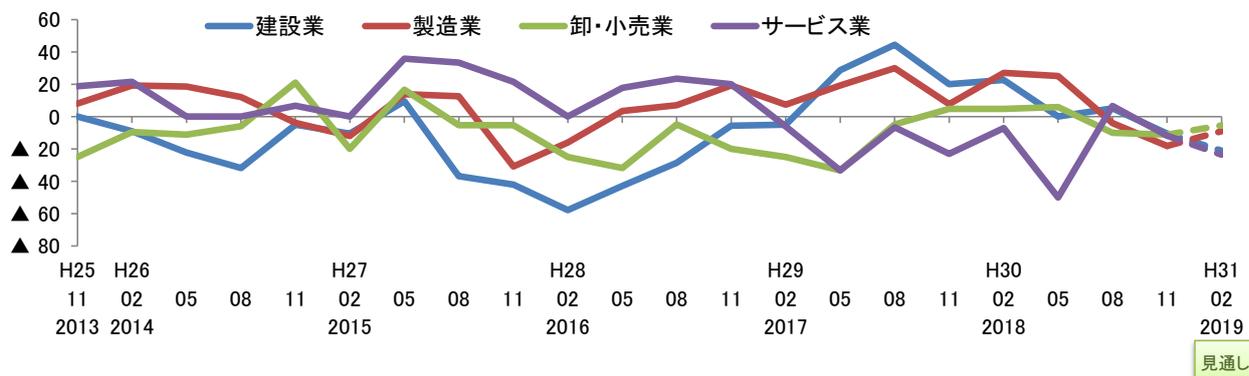
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲13.2（前回調査比 12.0 ポイント下落）と大幅に悪化となった。業種別にみると、すべての業種で悪化となり、建設業とサービス業で D I 値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲14.5（今回調査比 1.3 ポイント下落）と小幅ながら悪化が見込まれている。

図表 20 庄内田川「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 21 庄内田川「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

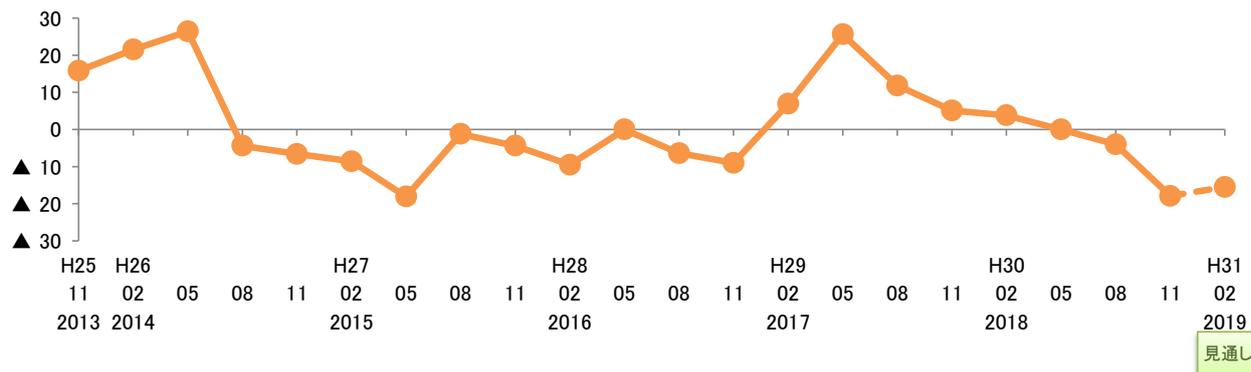
庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 29.11 (n=80)	5.0	(▲ 11.3)	▲ 4.6	20.0	7.7	4.8	▲ 23.1
H 30.02 (n=83)	14.4	(9.4)	▲ 10.0	22.7	27.0	4.8	▲ 7.1
H 30.05 (n=79)	▲ 1.3	(▲ 15.7)	▲ 10.8	0.0	25.0	5.9	▲ 50.0
H 30.08 (n=80)	▲ 1.2	(0.1)	▲ 25.3	5.0	▲ 4.0	▲ 10.0	6.6
<b>H 30.11 (n=76)</b>	<b>▲ 13.2</b>	<b>(▲ 12.0)</b>	<b>▲ 16.2</b>	<b>▲ 10.5</b>	<b>▲ 18.2</b>	<b>▲ 11.1</b>	<b>▲ 11.8</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 15.5)	(▲ 14.2)	(▲ 1.1)	(▲ 18.4)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 14.5</b>	-	-	<b>▲ 21.1</b>	<b>▲ 9.1</b>	<b>▲ 5.5</b>	<b>▲ 23.5</b>
今回調査比	(▲ 1.3)	-	-	(▲ 10.6)	(9.1)	(5.6)	(▲ 11.7)

## ⑥ 庄内飽海

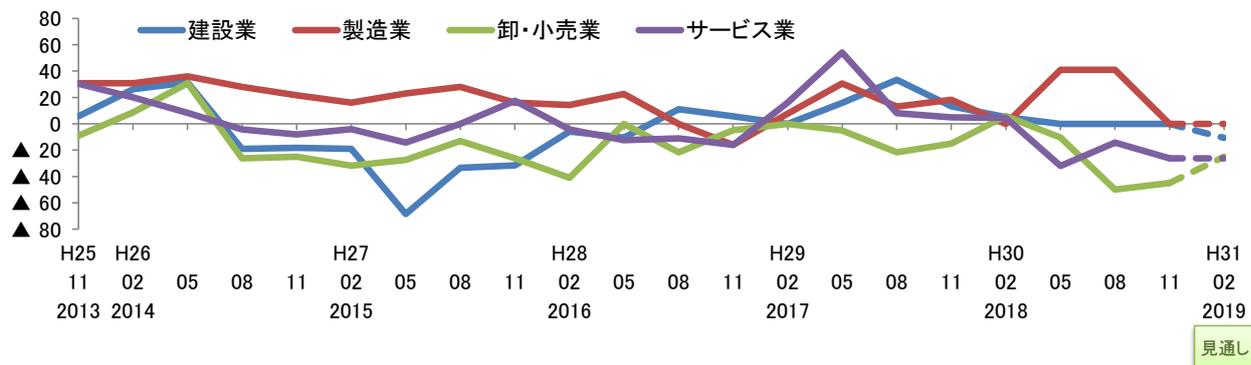
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲17.9（前回調査比 13.9 ポイント下落）と 6 期連続で悪化した。業種別にみると、建設業で横ばい、卸・小売業で改善となったものの、製造業とサービス業で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲15.5（今回調査比 2.4 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

図表 22 庄内飽海「自社の業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 23 庄内飽海「業種別・自社の業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 29. 11 (n=78)	5.1	(▲ 6.7)	▲ 7.1	13.3	18.2	▲ 15.0	4.8
H 30. 02 (n=80)	3.8	(▲ 1.3)	▲ 8.9	5.0	0.0	5.9	4.5
H 30. 05 (n=81)	0.0	(▲ 3.8)	▲ 17.5	0.0	40.9	▲ 10.5	▲ 31.9
H 30. 08 (n=76)	▲ 4.0	(▲ 4.0)	▲ 13.6	0.0	40.9	▲ 50.0	▲ 14.3
<b>H 30. 11 (n=84)</b>	<b>▲ 17.9</b>	<b>(▲ 13.9)</b>	<b>4.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>▲ 45.0</b>	<b>▲ 26.1</b>
前回調査比	-	-	-	(0.0)	(▲ 40.9)	(5.0)	(▲ 11.8)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 15.5</b>	-	-	<b>▲ 10.6</b>	<b>0.0</b>	<b>▲ 25.0</b>	<b>▲ 26.1</b>
今回調査比	(2.4)	-	-	(▲ 10.6)	(0.0)	(20.0)	(0.0)

II. 景気天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$

**山形県**

今期の業況 → 来期の見通し

**庄内飽海**

→

**最上**

→

**庄内田川**

→

**村山北部**

→

**置賜**

→

**村山南部**

→

今期の概況

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							



	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

### III. 特別調査

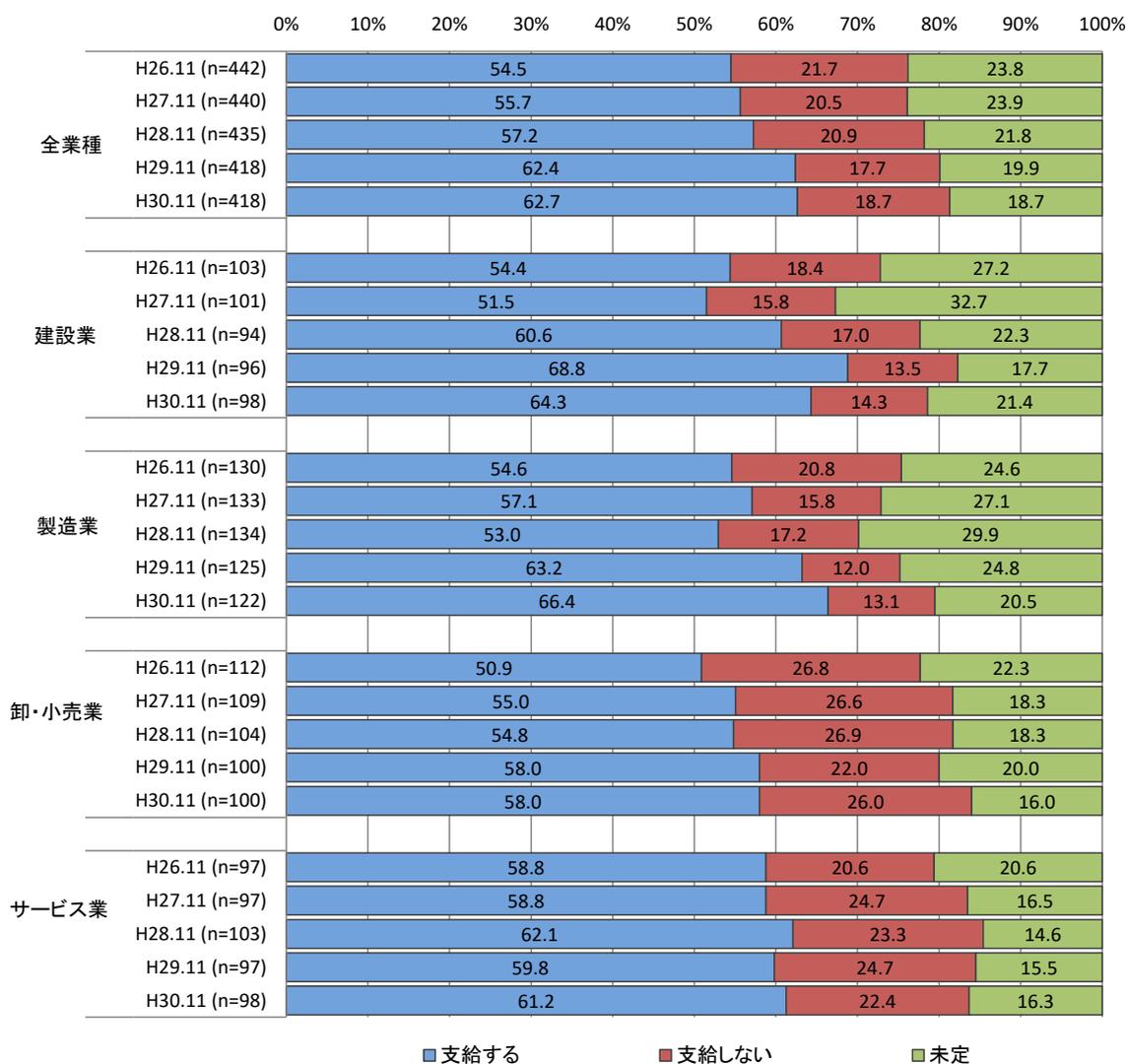
#### 1. 冬季ボーナスについて

##### (1) 支給予定動向

冬季ボーナスの支給予定について尋ねたところ、全業種で見ると「支給する」と回答した企業の割合は 62.7%（前年比 0.3 ポイント上昇）と小幅ながら上昇し、平成 24 年 11 月調査以降 7 年連続の上昇となった。

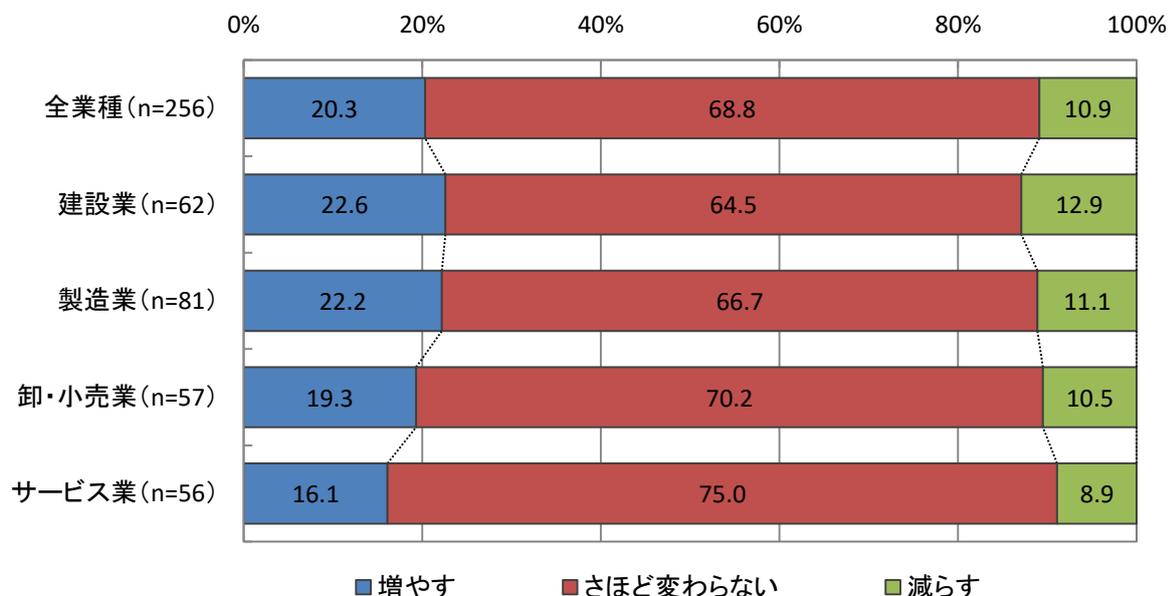
業種別にみると、「支給する」と回答した企業の割合は、建設業が 64.3%（前年比 4.5 ポイント低下）、製造業が 66.4%（前年比 3.2 ポイント上昇）、卸・小売業が 58.0%（前年比±0.0 ポイント）、サービス業が 61.2%（前年比 1.4 ポイント上昇）と、製造業とサービス業で上昇している。

図表 24 業種別「冬季ボーナス支給動向」の推移



また、今季「支給する」と回答した企業に対し、前年冬季と比べて支給額を増やすかどうか尋ねたところ、全業種でみると「さほど変わらない」と回答した企業の割合が最も高く、68.8%であった。業種別にみると、サービス業で「増やす」の割合が他業種に比べて低い。

図表 25 業種別 「冬季ボーナスを“支給する”企業の方針」



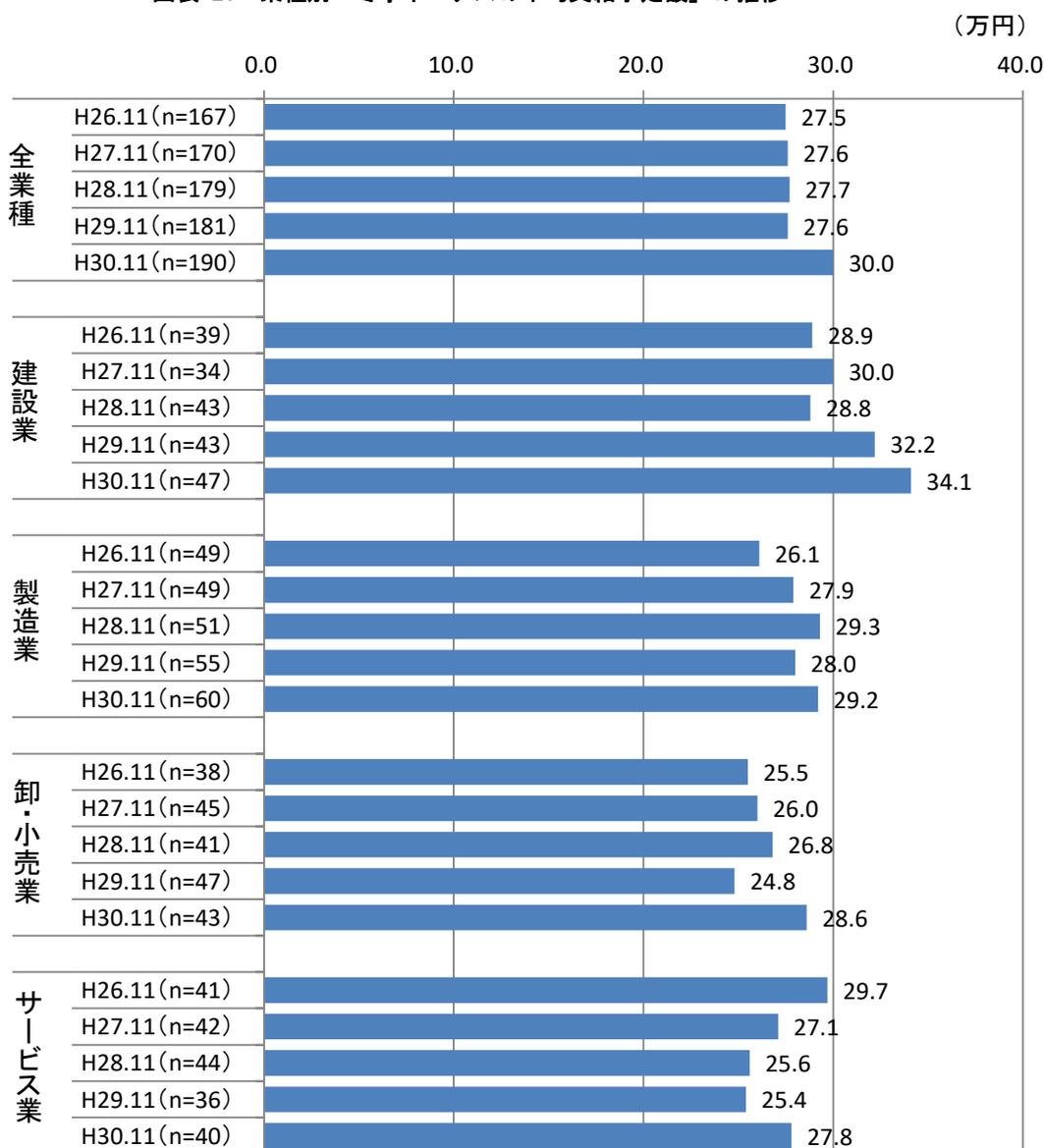
## (2) 支給予定額

冬季ボーナスの支給予定額については、全業種平均で 30.0 万円となり、前年に比べ 2.4 万円の増加となった。業種別にみると、すべての業種で平均支給予定額が前年比増加となり、建設業では 34.1 万円と 4 業種の中で最も高い一方、サービス業は 27.8 万円と最も低い。

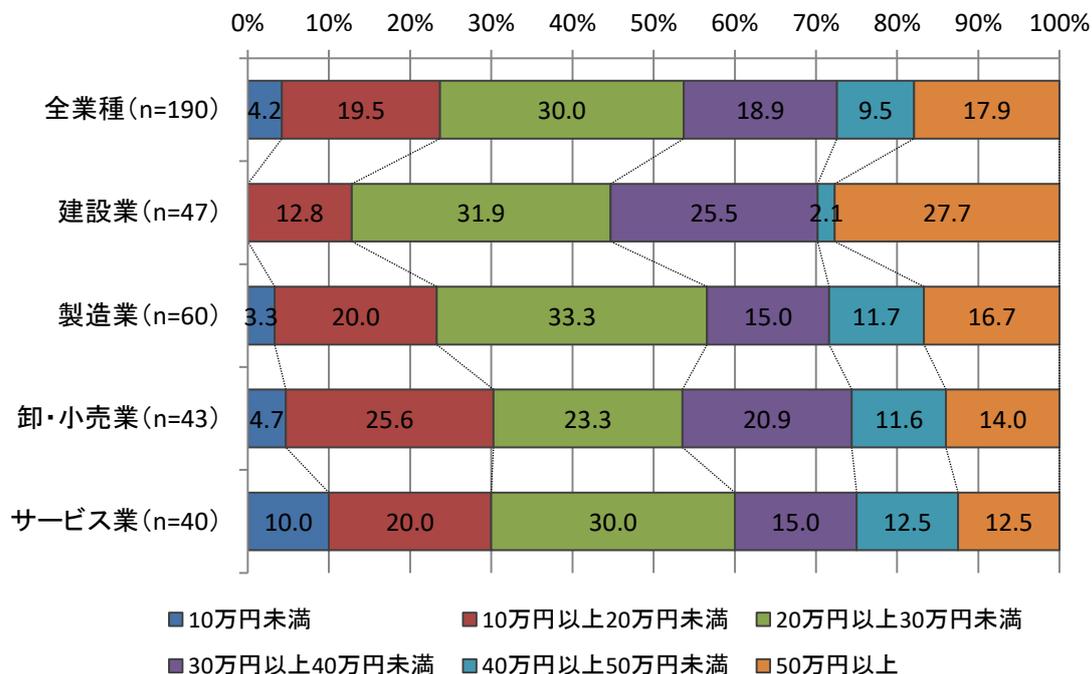
平均支給予定額は、全業種で「20 万円以上 30 万円未満」の割合が最も高く、30.0%となっている(図表 28)。業種別には、建設業で「50 万円以上」が 27.7%と他業種に比べて高い。

平均支給予定月数は、全業種で「1.0 カ月以上 1.5 カ月未満」の割合が最も高く、40.5%となっている(図表 29)。

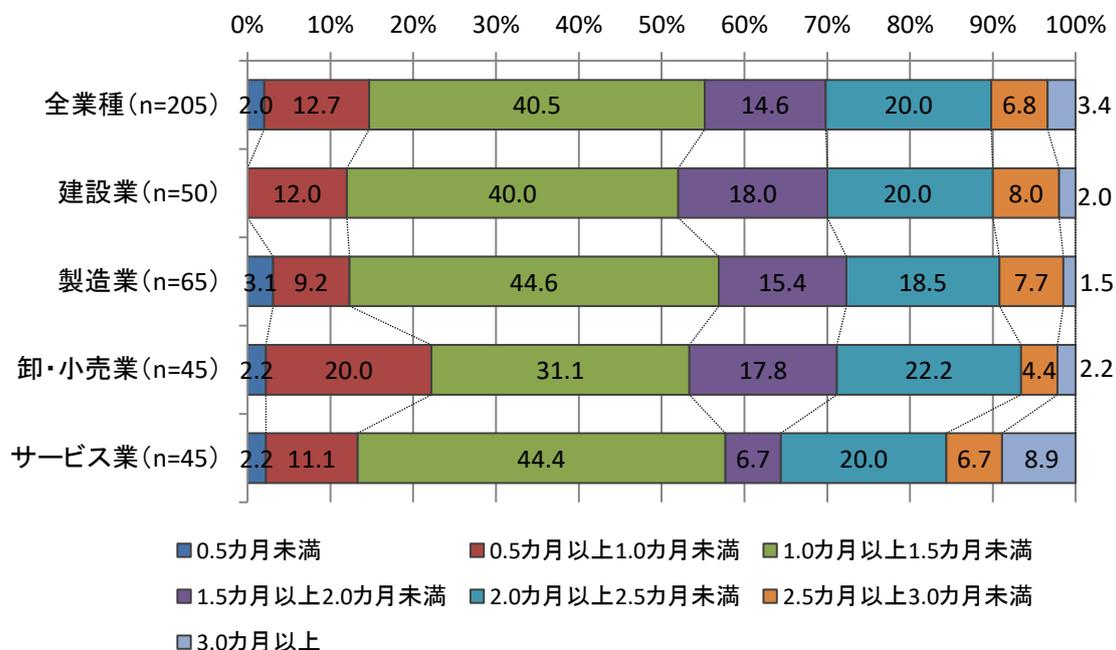
図表 26 業種別「冬季ボーナスの平均支給予定額」の推移



図表 27 業種別「冬季ボーナス平均支給予定額」



図表 28 業種別「冬季ボーナス平均支給予定月数」



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	23	35	48	54	160
村山北部	20	34	17	18	89
最上	21	18	10	18	67
置賜	23	32	25	13	93
庄内田川	30	38	29	29	126
庄内飽海	35	35	32	37	139
合計	152	192	161	169	674

(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	18	20	30	38	106
村山北部	13	20	12	8	53
最上	18	14	8	6	46
置賜	11	24	12	6	53
庄内田川	19	22	18	17	76
庄内飽海	19	22	20	23	84
合計	98	122	100	98	418

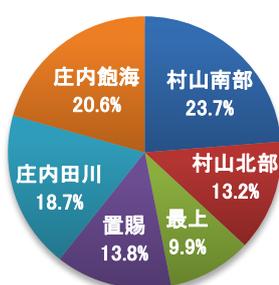
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	78.3	57.1	62.5	70.4	66.3
村山北部	65.0	58.8	70.6	44.4	59.6
最上	85.7	77.8	80.0	33.3	68.7
置賜	47.8	75.0	48.0	46.2	57.0
庄内田川	63.3	57.9	62.1	58.6	60.3
庄内飽海	54.3	62.9	62.5	62.2	60.4
合計	64.5	63.5	62.1	58.0	62.0

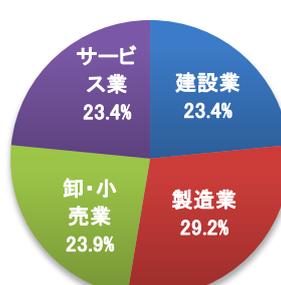
サンプル割合（業種別）



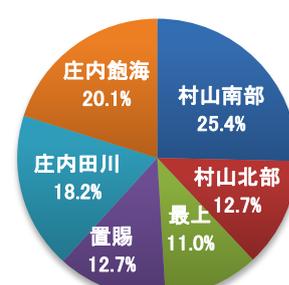
サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部FAXを利用）

● 調査期間

平成30年11月1日(木)～14日(水)

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について 3 肢択一方式を採っている。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製 (商) 品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ 3 肢択一方式を採っている

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれ D I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況 D I 値

$$= (\text{「1. 良い」と回答した企業の割合}) - (\text{「3. 悪い」と回答した企業の割合})$$

たとえば「自社の業況 D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向 (良くなっているか、悪くなっているか) についても分かる

ちなみに、他の D I 値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと) を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N 会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちら是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (<http://www.f-ric.co.jp/>) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア総合研究所

地域政策コンサルティンググループ 熊本 均 / 松田 美由紀

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@f-ric.co.jp URL : <http://www.f-ric.co.jp/>